

歌合部類

石濱水月堂  
連曆仙洞

十





石清水若宮御合

寛喜四年三月廿五日



題

河上霞

暮山花

社述懷

作者

元

三位行權中納言藤原朝臣定家

三位行權中納言藤原朝臣家光

參議三位行右兵衛督兼伊豫守藤原朝臣為家

三位藤原朝臣家隆

三位藤原朝臣知家

後三位藤原朝臣範宗

散位正四位下藤原行能

後四位上行右近衛權少將藤原朝臣伊成

後四位下行右近衛權少將兼因幡守藤原朝臣親氏

後四位下行右近衛權少將藤原朝臣賴氏

散位後四位下藤原朝臣顯氏

正五位下行治部權少輔兼春宮權大進藤原朝臣經光

正五位下中務權大輔藤原朝臣為繼

後五位上行侍從藤原朝臣隆祐

正六位上行左兵衛權尉源朝臣家清

法皇大和尚位昭清

正六位上行右近衛將監大神宿禰式賢

右

皇太后宮大夫俊成卿女

後三位行權右中弁藤原朝臣光俊

正三位行兵部卿藤原朝臣成實

女房下野

前權大僧都法皇大和尚位幸清

正五位下行左京權大夫藤原朝臣信實

法皇大和尚位覺寬

日吉祢宜後四位上行大藏少輔祝部宿祢成茂  
女房少將

前但馬守後四位上源朝臣家長

後四位下行右馬權頭源朝臣有長

法印大和尚位耀清

沙弥明教

女房但馬

太田祝賀茂縣主季保

法眼和尚位信忠

沙弥亮身

講師

中務權大輔為繼

讀師

西三位知家

判者

權中納言定家

一番 河上霞

左

権中納言定家

さうりすあはせしつとこふたれてあふとこふり重れうんむじ

右勝

俊成卿女

<sup>拾</sup> 姫乃うとくれわとあむつとてあ吹あてて宇治の川が

左 奇 老 老 之 相 也 性 年 久 積 疎 人 之 及 教

多 人 勅 使 之 行 新 時 代 雖 隔 景 氣 未 忘

依 終 學 後 愁 以 詠 吟 楊 姫 之 神 霜 尤 媛 艶 之 祥

也 可 為 勝

二番

左持

権中納言家光

川舟乃ゆとら此はとろく浪の多とへうすこまこれあまりの

右

光俊卿臣

あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん  
たまたまとにふれ難くお物な

三番

左持

右共衛督為家

あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん

右

共部卿成実

あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん

おと吹

四番

左

正三位家隆

あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん

右勝

女房下野

あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん  
たまたまとにふれ難くお物な  
あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん  
たまたまとにふれ難くお物な  
あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん  
たまたまとにふれ難くお物な

五番

左持

正三位知家

あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん

右

前権大僧都幸清

あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん  
たまたまとにふれ難くお物な  
あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん  
たまたまとにふれ難くお物な  
あまのつらふとあめのみと霞のくはわらふをまのふゆらん  
たまたまとにふれ難くお物な







十二番

虎持

經光

昔せしむとよとれ後りなる終るまうよりあまに立家か

右

法平耀清

まうとよとれ後りなる終るまうよりあまに立家か

ちと川流そしぬ速懐うれゆのゆり先かふ

くうらえわれゆりゆりし揚員又も明

ふやとてあか

十三番

虎勝

為繼

吉野川とらう岩かきせうまれば鹿めつはちとらう

右

源弥明教

あまのくうとてあまのくうとてあまのくうとてあまのくう

ちうとてすすれあひ川はくくをいふこと

ととむねゆりゆりなうことなることあけさか

無事失為勝

十四番

虎勝

隆祐

ちあてにむひる甲やうひん鹿と後うふとれ川さ

右

女房但馬

そのゆれやそうら川やあらんゆれあらんゆれあらん

なゆとけりあつてうらうらうらうらうらうらうら

ちとせとせあかんゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆり

十五番

虎勝

源家清



取誅之んれ依聽は道可賞其源昔能因下  
車忽秣路頭之結松今微臣染筆爭輕涉  
漱之餘流仍為傷

十八番 暮山花

左

定家

昔れ之あみ山乃掃きつや乃の我乃乃表しむりりな  
右勝 後成卿女

月影之う川ろふむよろろ久れ夕と表とみより山  
乃新久作宗廟之冥鑑適浴聖朝之天恩雖  
恥老老之至極於茲信心之不足總述之志更  
非宜詞

右方可謂妖艷之姿足于握翫為勝

十九番

左

家光

為てとむれ山色いあつなく小い海日とくともみりとる

右勝

光俊

色ぬとて雲に一よ乃高きハむとそあつとく山  
乃惜虞淵之景思魯湯之蹤風情有其  
真但古奇姿洞殊得其骨叶雅頌之舛仍  
行くらりさこむ

二十番

左

為家

ゆくとるむ下かけれ夕つらひらつらふをにらつら山と

右勝

成実

後拾 さらうまの雲れなるその山風は花乃あきれぬやと  
はらうとる乃らむれもつとむれあつこれぬ







尾持

為继

右

明教

山橋あまのまはれ風よた夕つやむらさき  
昔ぬとそ花よとわつ家らとわらわら  
ふれらる夕月情よとほむらさき  
んあこれゆめのかたしとく  
ありやうらとむらさきとわらわら  
ゆるむ

三十一番

尾持

あつすい

右

但馬

初瀬山ゆめはらうかろまにのみよる  
さあやうやれとそとあやうむむた  
まの暮らむむむむ

三十二番

尾持

家清

しむかしのゆめはらうかろまにのみよる  
うむらうむらうむらうむらう

右

季保

山陰のそとれ時のもれまむむむむ  
暮はりの揚りうらむむむむむむ  
ひげりうらむむむむむむむむ  
むむむむむむむむむむむむ

三十三番

尾勝

昭清

右

信忠

あつすいあつすいあつすいあつすい  
あつすいあつすいあつすいあつすい





三十七番

虎持

為家

あひやうらちりあうしうしうしあこたせれあやうふうと

右

成子

あふれまうあふあふせしうしあたのまうしうしあふあふ

あ首云持持方元

三十八番

虎持

家隆

うすあうしうしあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

右

下野

むりあひやうらちりあうしうしあふあふあふあふあふあふあふ

あひあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

三十九番

虎

知家

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

右勝

章清

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

えゆれしうしあふあふあふ

四十番

虎持

範宗

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

右

のあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ



たのういそゆういふゆりくちのういゆや  
ひまんとあつこいしんらん成やういふよまてんた  
とのけきうとたつしうくううえゆれうらや  
うや

四十八番

左持

右

昔よりういふたかたのる清あむらぬまよとらふまのりひ  
いんすりはまういぬまよはういあまういこいふまのりひ  
いんすりはまういぬまよはういあまういこいふまのりひ

四十六番

左

はのみり

やうい山程ゆいふゆい行うらうらあむらぬまのりひ

右勝

幸清

ねと山表あむらぬまよはういあまういこいふまのりひ  
る成非ういりいのりいんとまのりこ下れん  
んすうい不相意やういひん子之礼聴れ  
聲視れ無形不登高不隠深尤ねまのり  
くやゆいむたを理えねおゆ

四十七番

左持

あめはく

右

明教

かういむれいひのいひまありあうまよあられゆい  
いれあそくまよとまひん男いあられとけよまのりひ  
うい一はむらぬまよはういあまういこいふまのりひ  
ゆういあめはくをいしん為持

四十八番

左持

こつすけ

まゝまゝしつれあへていふはむかひのつらさの御しちあめめい

右

佃子

いふも水すまふおれはあつたまをそとに非れらひのまはれは

はたしひふたふ得失らんしゆくねいお物

四十九番

左勝

家清

あつたまをいれらひとまのひもむねとくふるまも響の打ちや

右

季保

非ちあへんらんまをいふますじとふらつたあられあつら

非いたく世宣詞人らんまをいふまをいふまをいふまをいふ

らんまをいふまをいふまをいふ

五十番

左勝

昭清

まゝまゝのびうもくまらつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

右

信忠

すてぬまをかりれすまをいふ男山あおけいりとのまをいふ

まをいふまをいふまをいふまをいふまをいふまをいふまをいふ

あつたまをいふまをいふまをいふ

五十一番

左勝

式賢

れまご山まのりやせままたあつたあつたあつたあつたあつたあ

右

宗身

わつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

おたのしめりししむらあはらひひり  
さしあはれ色もさうらうてあはれにまうくく  
えゆれんおま

仙洞講合 建曆三年閏九月十九日

題

深山月 寒野出 寄風雜

作者

元

女房 順徳院

大藏卿藤原朝臣有家  
後三位藤原朝臣家衡  
宮内卿藤原朝臣家隆  
丹後守藤原朝臣朝宗

辛  
山同

右  
散位藤原朝臣行能

左近衛權中將藤原朝臣雅經

侍從藤原朝臣定家

左近衛權中將藤原朝臣經通

俊成卿女

左近衛權少將藤原為家

侍從藤原光家

講師

讀師

判者

侍從藤原朝臣定家

一番深山月

左勝

女房

月乃のろと山れしうひしを野乃る人や秋うはる

右

雅經朝臣

時多のりし我志を縁志うきれか山のおく乃秋れよの月  
た奇を神の網敷也可謂実相兼た奇すま  
又中うなるさゆははゆをさうさ乃か山を  
し深山に空をてとやゆを兼又奥にのむ  
ゆめさうとこ山乃網さるる要な記よやゆ  
らんひた為備

二番

左勝

大藏卿

秋乃よは月やと事そ契らと記し葛城山れく免の雲は

右

侍従

あつたれ病どく山をたしあまの枝めも葉もも月をまよ  
た上白愚意いゆ〜とんえゆ〜孫と〜と安の  
後〜りゆ〜

あまのつら病どく山をたしあまの枝めも葉もも月をまよ  
た上白愚意いゆ〜とんえゆ〜孫と〜と安の  
後〜りゆ〜  
あまのつら病どく山をたしあまの枝めも葉もも月をまよ  
た上白愚意いゆ〜とんえゆ〜孫と〜と安の  
後〜りゆ〜  
あまのつら病どく山をたしあまの枝めも葉もも月をまよ  
た上白愚意いゆ〜とんえゆ〜孫と〜と安の  
後〜りゆ〜

三番

虎持

後三位

あつたれ病どく山をたしあまの枝めも葉もも月をまよ  
た上白愚意いゆ〜とんえゆ〜孫と〜と安の  
後〜りゆ〜

右

経通朝臣

あつたれ病どく山をたしあまの枝めも葉もも月をまよ  
た上白愚意いゆ〜とんえゆ〜孫と〜と安の  
後〜りゆ〜  
あまのつら病どく山をたしあまの枝めも葉もも月をまよ  
た上白愚意いゆ〜とんえゆ〜孫と〜と安の  
後〜りゆ〜  
あまのつら病どく山をたしあまの枝めも葉もも月をまよ  
た上白愚意いゆ〜とんえゆ〜孫と〜と安の  
後〜りゆ〜

四番

平

山岡

マ



左勝

家隆朝臣

月をきとすめいさみ帯り白雲れあえはせられひく雲は本は

右

後成卿女

鳥乃祢も本れあを志くぬみ心から月を志きは海より神  
た志らとにようくくわみえゆりはあき雨の  
ききもさるひく山よりよきて月影を志く先を  
すみもりやとげらん穢はあきさうり物りく  
ゆきこし勝とやわくやゆらん

五番

左勝

範宗朝臣

嵐吹み山れ居のむも波わくみ月とわくわく人との那

右

常家

ちく雲れぬみやふれ月よまやんくく人ら秋のゆり  
た下旬のりゆくく右秋れ月の光よびうひて  
ちく雲らうくかやりの事しあひしてあしゆ  
まこと心ち勝

六番

左

行徳朝臣

君ふ代とくくみ山れ松の枝らわくく月とい川せり  
右勝

光家

青柳れくく心よ雲消てなる記よわく月そくく  
左君ふ代とくくつくとく代を八く世よあしゆり  
さし物とあ乃始のみ文字すあきさくあきさく  
ゆらん又松く梅く枝ら常にのみあきさく  
なれてゆり花れあきさくさくひるれてゆらん  
あきさく娘母のあきさくさくさくさくさく



九番

左持

後三位

その秋と地ひうよんはさうくはむと地く兼い海はさう

右

經道朝臣

よる家はあふさたれぬきもはさのすむ地は朝のさう  
たあふとけりあしあく右わありあさうまけは  
しるまじやとらんやとらんかたすすまじと  
まじとけりあかやとやゆらん

十番

左

家隆朝臣

那色とつと出れ着あむじ初霧よりさるものさるや  
うきさうり今河とじと松虫はくれ時く落よさるさう

右勝

後感卿女

ひー乃喜あむじ初霧よりさるものさるや  
ゆきりさあむじとらうくさるゆきとわとあさ  
しれゆきとらうくあむじとらうくさるゆきとわとあさ  
あさとらうくあむじとらうくさるゆきとわとあさ  
とらうくあむじとらうくさるゆきとわとあさ  
とらうくあむじとらうくさるゆきとわとあさ

十一番

左勝

範宗朝臣

長月と兼い朝のさるゆきとらうくさるゆきとわとあさ

右

為家

初霧乃とけり小藤うみてさるゆきとらうく松虫乃さ  
たすんさるゆきとらうくさるゆきとわとあさ  
あさとらうくあむじとらうくさるゆきとわとあさ







